



議会力を磨く

9月議会では、「海の魅力に磨きをかける戦略」について大きく取り上げました。

館山に移住して7年。これほど海と身近に接した暮らしは初めてなので、大きな可能性に感動すると同時に、この宝の活かし方について、もどかしさや様々な疑問も常々感じています。

質問に先立ち、クルーズ船に関する施策を確認するため国土交通省を訪問しました。他会派との合同視察という初の試みで、内容の濃い調査ができました(詳細は裏面に)。館山市が観光の力を発揮できれば千葉県、さらに国にとってもプラスとなることですから、堂々と交渉して欲しいものです。

また、決算審査特別委員会です平成28年度決算を認定しました。一般会計歳出は191億円と過去最大で、経常収支比率は98.2%と県下ワースト2位となりました。一つひとつ全ての事業の審査をするのは並大抵の労力ではありません。十分に把握しきれていないこともまだまだありますが、出来る限り数値の議論によって、限られた財源で最大の市民福祉の向上が達成できるよう、市政の監視と前向きな提案を心がけています。

議員の仕事に終わりはなく、特に身近な問題に挑戦する市議は、やればやるほど奥の深いやりがいのある仕事です！現場の声を拾い、数値データを含めた価値ある情報を収集して現状や課題を分析し、その解決策を考え、実現に向けて関係者との調整や交渉を行う。これまでの知識や経験、人脈を総動員して日々活動していきます。

さらに議会は合議体なので、1人で突っ走るだけでなく、志を同じくする議員仲間を増やして協力し合うことで真の力を発揮できると実感するようになり



公明党議員2人と国交省への視察

むろあつみの決算委員会質疑・補正予算質疑より(数値でみる)

【保育士処遇改善事業】

私立保育園保育士の月額給与に平均2万円上乗せとなりました。公立と私立の常勤保育士の処遇格差は縮まるものの、常勤と非常勤の処遇格差は大きく、公立保育園の非常勤保育士比率が近隣市に比べても高い。子供の命を預かる大切な職場なので、非常勤職員の処遇改善及び常勤職員の増加を訴えました。



【人件費】

決算書の「人件費」は、平成28年度31億円で10年前より5億円減少だが、非常勤職員賃金が含まれない等わかりにくい。正職員給与と非常勤職員賃金のみ取り出すと、10年前に比べ2億円減にとどまっている(非常勤職員が急増しているため)。

【正職員給与・非常勤職員賃金比較】

	H18年度	H28年度
人件費(*)	40.3億円	38.2億円
正職員	37.3億円	32.7億円
非常勤	3.0億円	5.5億円
職員数	599人	659人
正職員	442人	405人
非常勤	157人	254人
一人当たり人件費(*)		
正職員	844万円/年	807万円/年
非常勤	189万円/年	217万円/年

*人件費は、正職員は給料・手当等、非常勤は賃金・社会保険料等

【館山市 公立と私立保育園の保育士比較】

	公立	私立
常勤平均月給	30.4万円/月	23.5万円/月
非常勤時給	1000円/時	900円/時
常勤保育士数	46人	30人
非常勤保育士数	49人	12人
(非常勤比率)	51.6%	28.6%

*公立は、正規職員が常勤、非正規職員が非常勤で計上
*私立は、市内4園。時給は平均。

【公立保育士数の比較】

	常勤	非常勤	合計	非常勤比率
館山市	46人	49人	95人	51.6%
南房総市	42人	36人	78人	46.2%
鴨川市	51人	22人	73人	30.1%

【第3回議会報告会】

日時:10月29日(日)10:00~11:30
若潮ホール(出席議員:吉田、瀬能、本多、石井敏、森、今井)
館野公民館(出席議員:本橋、鈴木順、福岡、太田、石井敬、龍崎)
神戸公民館(出席議員:石井信、榎本、鈴木正、内藤、望月、室)
*予約等不要。どの会場でもご参加頂けます。

【むろあつみランチ懇親会】

*議会報告会終了後に移動(12時頃~)
場所:メラーノカフェ(布良崎神社隣り) 館山市布良367-1 TEL 28-4492
参加費:1000円
*予約制です。前日までにお申し込みください。
申込み先 FAX 29-5333
Email muroatsumi@gmail.com

9月議会報告・・・むろあつみの行政一般質問より

1. 『海の魅力に磨きをかける戦略』について

◆館山港多目的観光棧橋の有効活用

館山港多目的観光棧橋（通称『館山夕日棧橋』）は、平成22年に供用開始されました。総事業費は約15億円、うち館山市負担は約2億円です。当初計画よりも先端部岸壁と道路部が非常に狭いため大型バスの転向ができないこと、小型棧橋も少ないことから、市は規模拡充に関する要望活動を続けています。

前回6月議会で、瀬能議員が棧橋の問題を取り上げ、拡充する際には、大型客船の寄港も可能にすべく現在の喫水マイナス7.5mからマイナス9mへの変更も合わせて検討すべき、と問題提起されました。クルーズ船を取り巻く環境は、「館山港港湾振興ビジョン」が策定された平成14年から大きく変わり、大型化と訪日クルーズ客の急増という潮流があるとのこと。現状では、約300隻のクルーズ船の約半分しかとめられません。マイナス9mにすれば世界中のほとんどのクルーズ船が寄港できるようになるというのです。

これを受け、公明党議員2名と国交省への調査を実施しました。その結果、①今後も訪日クルーズ客の大きな増加を見込んでおり（2020年500万人）、「お断りゼロ」に向けた受け入れ

環境の整備を進めていること、②各地での海外クルーズ船誘致・受け入れの事例、③国が千葉県に対して、観光戦略と絡めたクルーズ振興に向けたビジョンを描くよう求めていること、等を知ることができました。

一方、棧橋利用状況を数値で確認したところ、棧橋が出来てから利用客は全く増えていない（むしろ減っている）ことが判明しました。

【観光入込数・客船等乗船者数】

	平成21年	平成28年
観光客数	178万人	186.5万人
客船	1,116人	941人
高速ジェット船	17,283人	6,604人
かめりあ丸・さるびあ丸	—	150人
東京湾フェリー	200人	0
おがさわら丸	—	44人
一般公開・船内見学	—	737人

東日本大震災や大島土砂災害等の影響があるにしても、多額の税金を投じて作った施設の有効活用に向け、あらゆる手を尽くして取り組むべき。今後、棧橋拡充にお金をかけるのであれば、経済効果をきちんと示すと同時に、15年前に策定したビジョンに固執することなく、時代の流れを踏まえ長期的な視野で国や県とも真剣に議論、交渉して欲しいと訴えました。

◆市営・下原漁港について

昭和55年に西岬の香・塩見・浜田地区が合併してできた下原漁港は、国が定める漁港整備長期計画の中で改修事業として位置づけられ、平成24年度までに総事業費11億円（市負担2億円）をかけて整備されてきました。

平成27年時点の年間利用漁船は46隻、陸揚量127トンであり、長期計画の想定（60隻、516トン）を大きく下回っています。こちらも、多額の税金を投入して作ったけれども効果がないでは済まされません。地元漁協の意見も聞きながら、漁業に観光の視点も加えた有効活用の方策を実現していくよう、市の動きに期待すると同時に私も協力して参ります。

2. 地域包括ケアシステムの整備状況について

『地域包括ケアシステム』は、高齢者が、介護が必要になってもできるかぎり住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう医療、介護、予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保されることを目指す制度です。個別の事業は色々進められているものの、「包括」の意味をどう捉え、各事業をどのように位置づけ有機的に繋げていくのか、今回の答弁でははつきりつかめませんでした。

人的ネットワークの構築、情報や資金を一元化して統括する部署、現場と全体の理論の両方が分かる専門家、等が必要となる難しいテーマですが、地域で安定的に社会保障が受けられる体制作りを進めて欲しいと考えています。

議会傍聴者の声（一部略）

何時もながら、十分な調査研究をしての質問に圧倒されました。室さんの鋭い質問に対し、眠気を誘うような気怠さが、雑壇から漂ってきたのが、傍聴席から丸見えなのが残念でした。午後一の時間帯だったのでしょうか？

港と観光の件ですが、館山は小さな町なので、数は少なくとも中小型船のお客様と体験して貰いながらの、丁寧なおもてなし、と言うのも一つではないでしょうか？このままでは、漁業のみならず、農業も衰退してくると思うので、空き家に、一時定住して農業漁業を体験したい人達の誘致も出来たら良いですね。

地域包括支援ケアが老人のみならず、子供も含めるという方向になってきたとの事。要は、現代仕様の地域の助け合いを復活させるということでしょうか？現在、社会福祉協議会と市の福祉課とで、同じような活動をしているように感じます。民生委員、保健推進員、青少年相談員、生活支援コーディネーター、等々。もっとシンプルにしたら良いと思うのですが。

また時間がありましたら、議会傍聴に行きます。

